

	類似疾病検査	疫学調査	臨床検査	送付用検査材料
海10 アフリカ豚コレラ〔法〕	① 70 豚コレラ ② 82 豚丹毒 ③ 慢性関節炎 ④ 慢性肺炎 ⑤ 壊死性皮膚炎 ⑥ 75 トキソプラズマ病 ⑦ 79 豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS)	① 豚、いのししが感染、発病 ② 豚コレラワクチン接種豚でも発生する。 ③ 甚急性、急性、亜急性、慢性、不顕性と病性が多様 ④ 甚急性、急性、亜急性の死亡率は 100% で、症状と病変が豚コレラに酷似 ⑤ 感染は主に直接・間接の接触伝播による。	< 甚急性型 > ① 発熱 ② 1~3 日で死亡 < 急性型 > ① 発熱、元気消沈、歩様蹠踉 ② 耳翼、鼻端、四肢、下腹部のチアノーゼ ③ 脾臓の腫大、全身の出血病変、リンパ節の腫大、血便、豚コレラとの類症鑑別は困難 < 慢性型 > ① 慢性肺炎、関節炎、壊死性皮膚炎、高γグロブリン血症 ② 全く症状を出さない不顕性例もある。	① 血清 ② 抗凝固剤加血液 ③ 扁桃、脾臓、リンパ節、肝臓、肺、腎臓 ④ ホルマリン固定臓器
海11 豚水疱病〔法〕	① 海2 口蹄疫 ② 海5 水疱性口炎 ③ 海25 豚水疱疹	① 豚、いのししに発生する。 ② 散発的発生と大きな流行とがある。 ③ 発生に季節的なものはないが、冬に多い傾向がある。	① 四肢の蹄冠部、趾間部、蹄裏、副蹄基根部、四肢の皮膚、ときには臀部皮膚、口唇部の内外面、舌上皮、鼻鏡に水疱を形成 ② 水疱が破れた後、潰瘍、び爛および痂皮 ③ 跛行、重症では起立困難	① 水疱上皮 ② 水疱液 ③ 扁桃 ④ 血液
海12 ランピースキン病〔屈〕	① 皮膚病変を伴う牛ヘルペスウイルス病 ② アレルギー性皮膚炎 ③ 29 牛バエ幼虫症	① 牛、水牛が感染する。 ② 潜伏期は 4~14 日 ③ 感染牛唾液による接触伝播、昆虫による機械的伝播 ④ アフリカで発生し、多湿夏期に多発	① 弛張熱、流涎、鼻漏 ② 境界明瞭な発疹、のちに小結節が頸、背、腿、外部生殖器、鼻鏡などの皮膚と粘膜に出現 ③ 鼻鏡、尾腹側、眼の病変は帯黄色で帯褐色滲出液で覆われる。 ④ 軽症では 2~3 週間で治癒	① 新鮮な皮膚病変 ② ホルマリン固定病変 ③ ペア血清
海13 トリパノソーマ病〔馬〕〔屈〕	① 海7 馬ピロプラズマ病 ② 144 馬伝染性貧血 ③ 中毒	① 病原体の種類によって病原性が異なる。 ② 吸血昆虫によって媒介されるが、 <i>T. equiperdum</i> では接触感染による。	① 発熱(回帰熱) ② 貧血、浮腫、悪液質 ③ 中枢神経障害による嗜眠、知覚麻痺 ④ <i>T. equiperdum</i> では皮膚に特有の斑点状浮腫、生殖器の炎症 ⑤ 斃死(急性例)	① 血液塗抹ギムザ染色標本 ② 抗凝固剤加血液
海14 ニパウイルス感染症〔屈〕	① 66 流行性脳炎(日本脳炎) ② 79 豚繁殖・呼吸障害症候群 (PRRS) ③ 76 オーエスキー病 ④ 84 豚インフルエンザ	① 1998~1999 年にマレーシアで発生し、2001 年以降発生はない。 ② 感染豚の死亡率は 5% 程度。 ③ 主にオオコウモリがウイルスを媒介する。 ④ 人にも感染し、死亡することがある。 ⑤ 豚では不顕性感染が多い。 ⑥ 2001 年以降にバングラデシュで発生が相次ぐ。	① 呼吸器症状(呼吸数増加、開口呼吸、強制呼吸、激しい発咳等) ② 神経症状(振戦、テタニー性痙攣、筋肉攣縮等) ③ 成豚では神経症状が、育成豚では呼吸器症状が強く現れる傾向。 ④ 間質性肺炎 ⑤ 非化膿性髄膜炎 ⑥ 妊娠母豚では死流産	① 臓器組織(肺、リンパ節、脾臓、腎臓、脳など) ② 血清